

大学生の卒論アンケート

—「問い」の観点からの分析(上)—

なか もと きょう へい
中 本 恭 平

1. 本稿の目的

Google 社が無料で提供している「Google フォーム」(以下「GF」)が普及したことに伴い、このサービスを利用して、卒業論文執筆のために必要なデータを収集する目的でアンケート(以下「卒論アンケート」)をインターネット上、特に SNS 上で実施する大学生が増えている傾向が見られる。そこで本稿では、卒論アンケートを主に「問い」という観点から分析し、大学生が実施している卒論アンケートの特徴や問題点を明らかにする。

2. インターネットを利用したアンケート調査の特徴

安藤(2021: 62-64)は、「インターネット調査」⁽¹⁾を行う前提として、(a) 対象者がインターネット利用者に限られること、(b) 調査に協力する(アンケートに回答する)人に偏りが生じること、(c) 回答者の本人確認ができないこと、(d) 回答者の協力が限定的になること、(e) 質問が深く掘り下げられないこと、(f) 統計的精緻さが期待できないことをあげている(記号は筆者による)。

(a) は当然であるが、電話を利用した調査では電話に加入していることが条件となるのと同じである。

(b) と関連して、インターネット調査では、自分が実施しているアンケートに気づいてもらえるかという問題点もある。卒論アンケートでは、「拡散をお願いします」と記載されている場合も散見される。

(c) について、安藤は、性別や年齢の確認ができないこと、同一人物が複数回回答するのを排除するのが難しいこと、回答者の条件を満たしているかの確認ができないことなど

を指摘している。これらはすべて、回答者がどの程度（不）誠実に回答しているかという問題に行き着く。しかし、これは対面調査においてもある程度起こりうる。性別を偽るのは難しいが、正確な年齢を偽ることは不可能でなく、さらに年収などの情報では虚偽の回答をすることは容易である。つまり、インターネット調査に限らず、アンケート調査全般に関係する問題点であると言える。

(d) は、回答を途中で放棄する場合などを指している。安藤（同書 p.63）によれば、「質問数が30問、回答時間が15分での中止率は4~5%」であるが、「さらに質問数が多くなれば8~17%程度に中止率が増える」そうである。GFの場合、アンケート実施者は、各問いについて、必須回答と任意回答が選択できるが、必須回答とした問いに回答者が回答したくない（あるいは回答できない）場合、無回答のままだと送信できない仕組みになっているので、そこで回答を中止する（その画面を閉じる）か、虚偽の回答をするかのどちらかとなる。

(e) は、インターネット調査だと選択式（回答の選択肢を提示する方法）が主となることを意味している。しかし、実際には、記述式を取り入れることは可能である。ただし、記述式が多いと回答者に精神的負担をかけて、結果的に回答してもらえないという可能性が高まる。

(f) は、以上のインターネット調査の種々の制約を十分に理解した上で調査を実施しないと、結果として得られたデータが使い物にならないことを意味している。たとえば、回答者は女性に限るというアンケートをインターネット上で実施しても、実際の回答者が全員男性であったという可能性も排除できない。

3. インターネット調査の利点

§2の結論として、インターネット調査を実施しても意味がない（データが使い物にならない）のではないかと思えてくる。しかし、それは回答者が不誠実な態度で回答しているという前提に立つ場合であり、逆に回答者が誠実に回答しているという前提に立てば、インターネット調査にはさまざまな利点がある。安藤（2021: 64-65）は、(a) コストがかからないこと、(b) 結果が直ちに得られること、(c) 大規模な調査が可能であることなどの「メリット」をあげている（記号は筆者による）。

(a) に関して、大学生の卒論アンケートでは、調査研究用の予算を取ることができないのがほとんどであるので、謝金の支払いを考慮しなくて済む。

(b) について、GFの提供者であるGoogle社は「リアルタイムで更新される回答データをグラフで確認できます。または、Google Sheetsで元データを開き、詳細な分析や自

自動化を行うことも可能です。」と説明している⁽²⁾。回答期限を設定すれば、その時刻で自動的に回答受け付けが終了し、最終結果がほぼ瞬時に出るという利点がある。

(c) は、国際的な調査も可能であることを示唆しているが、卒論アンケートの場合は、質問票が日本語で記載されているのがふつうであることから、国内での回答を前提にしていると言える。

上記以外の「メリット」について、安藤は、回答率が比較的高い、自由回答（記述式回答）の回答率が比較的高い、回答者を細かく設定できる、写真や動画を利用したアンケート調査が可能である、回答の矛盾などをシステムで検出できるので有効回答が多くなる、などの利点をあげている。最後の利点に関して、Google 社は「組み込みのインテリジェンス機能を使用して回答の検証ルールを設定できます。たとえば、メールアドレスが正しい形式であることや、指定の範囲内の数字が使われていることを確認できます。」と説明している⁽³⁾。

§2 と §3 から、インターネットを利用したアンケート調査にはさまざまな利点があるものの、それらの利点が生かされるためには、回答者が誠実に回答しているということが大前提となっているとまとめられる。匿名であるから不誠実な回答も可能なわけであるが、逆に匿名であるがゆえに、案外素直な回答が寄せられているという可能性も否定できない⁽⁴⁾。

4. アンケートの質問文

アンケート調査で使用する質問文（問い）に関して、いくつかの社会調査関連の文献から、注意点を抽出する。

菅（2018: 21）は「調査票作成方法 12 ヶ条」のうち質問文に関するものとしては、聞きにくい質問をしない、難しい言葉は使わない、1つの質問に2つの情報があってはいけない、誘導してはいけない、調査目的に無関係の質問はしないことをあげている。

安藤（2021: 118-120）は、曖昧な表現・難しい用語を避ける、ステレオタイプの表現を避ける、ダブル・バーレル質問を避ける、パーソナル問題とインパーソナル問題を区別する、キャリア・オーバー効果を回避する、バイアス質問（誘導質問）を避けることを指摘している。

土屋・齋藤（2011）と及川（2015）はいずれも医療・看護系研究という特定分野の研究におけるアンケート調査について解説した文献であるが、質問文作成上の注意点として、土屋・齋藤（2011: 55-56）は、誘導質問をしない、1文では1つのことしか尋ねない、二重否定は使用しない、曖昧な語句は使用しない、いろいろな意味に受け取れる文は作成し

ない、平易な語句を使用する、をあげている。一方、及川（2015: 61-64）は、1つの質問項目に2つ以上の質問を入れない、個人的質問と一般的質問を明確に区別する、質問文の順序は次の質問に影響しないようにする、あいまいな表現を避ける、まぎらわしい表現を避ける、失礼（無礼）な表現を避ける、をあげている。

以上4つの文献が指摘する質問文の注意点をまとめると、次のようになる。

- (1) 質問すべき質問に限定する。（無関係な質問、回答者に対して失礼な質問などはしない。）
 - (2) わかりやすい表現を用いる。（あいまいな表現、難しい用語、二重否定などのまぎらわしい表現を用いない。複数の意味に解釈できる文にしない。）
 - (3) 1つの質問文には1つの質問だけを含める。（1つの質問文に2つ以上の質問項目を含めない。）
 - (4) バイアスのない質問文にする。
 - (5) 誘導質問や、後の質問文に影響を与える質問順序にしない。
 - (6) 個人的質問と一般的質問を明確に区別する。
- (3) について、中本（2022: 63）は、(1) は6つに分割できると指摘した。

- (1) かがみがないとき、かがみが1まいのとき、かがみが3まいのときで、明るさとあたたかさはどうだったか。

この種の文は、具体的に何をたずねられているのかがわかりにくくなるという欠点がある一方で、簡潔に表現できるという利点がある。しかし、アンケート調査の場合は、回答に大きく影響するという致命的な欠陥がある。菅（2018: 20）は、(2) は (2a) (2b) に分割できる「1つの質問に2つの情報がある」文としている。

- (2) ○○党は、消費税を上げずに頑張っていますが、あなたはこの政党を支持しますか。
- (2a) ○○党を支持しますか。
- (2b) 消費税を上げないことに賛成ですか。

(2) を「が」という逆接語に着目して分析すると次のようになる。

- (2') ○○党は、消費税を上げずに頑張っています（から、あなたはこの政党を支持しているはずですが、（実際には支持していないかもしれないので）あなたは

この政党を支持しますか（という問いに答えてください）。

(2b) が (2a) の理由となっているということは気づきにくいので、回答者は支持理由に関係なく、単に (2a) に対して回答する可能性もある。したがって、(2) は (3) の適切な具体例とは言えない。(3) のほうが適切である⁽⁵⁾。

(3) 刺繍や編み物は、男性より女性が向いている。(安藤 2021:119)

刺繍は女性に向いているが、編み物は男性に向いていると思う人は、「はい・いいえ」の「2肢択一回答」(安藤 2021:117) の場合は回答できない。

〈4〉は、言語学的には「内包的意味」(connotative meaning, 田中編 1988: 121) に留意した質問にする、と換言できる。安藤の例を引けば、「規制化」「リストラ」は否定的な内包的意味、「自由化」「キャリア・アップ」は肯定的な内包的意味を持つ。したがって、たとえば

(4) あなたは、会社が余剰人員を整理することに賛成ですか。

(5) あなたは、会社が余剰人員をリストラすることに賛成ですか。

では、賛成しないと回答する人の数は (4) < (5) であることが予想できる。

〈5〉は先の (2) が例となる。単に (2a) でたずねた場合と比較すれば、(2) に誘導的側面があることがわかる。なお、(2) は (6) としても大差はない。

(6) 消費税を上げないことを公約に掲げている〇〇党を支持しますか。

「キャリア・オーバー効果」について、安藤 (2021: 119-120) は (6) と関連づけて説明している。

(7) あなたは環境保護のためにリサイクル活動は必要だと思いますか。

(8) あなたはリサイクル活動をしたいと思いますか。

(7) は一般的質問 (インパーソナル問題)、(8) は個人的質問 (パーソナル問題) であるが、(7) → (8) でたずねた場合、(8) だけを提示した場合より、(8) に対する肯定的な回答が増えることが予想できる。これは、(7) により、リサイクル活動の必要性を回答者

が学習してしまうことに起因する。

アンケート調査における質問文（問い）としての留意事項は、〈1〉-〈6〉以外にも考えられる。たとえば、中本（2022: 70-73）が指摘した「漠然とした問い」も避けるべきである。たとえば、〈8〉を自由回答方式にした場合である。

（9） あなたはリサイクル活動についてどう思いますか。

（7）を前置せずいきなり（9）をたずねられても、「よいと思います」「必要だと思いません」のような常識的で抽象的な回答しか得られない可能性が高まる。

（10） あなたは、一般消費者が可能な範囲で行えるリサイクル活動として、具体的にどのような活動があると思いますか。

のようにある程度制限を加え、具体化すれば、回答しやすくなる。ただし、具体化する場合は、誘導質問にならないように留意する必要がある。（10）から、一般消費者である回答者が、何らかのリサイクル活動に（積極的に）参加することを暗に求められていると解釈するかもしれない。

これより以下では、以上の議論を踏まえ、卒論アンケートの質問文を問いの妥当性という観点から分析する。その際、回答の選択肢との問答の「かみ合い度」についても検証する⁽⁶⁾。

5. 調査方法

卒業論文に取り組んでいる大学生が、論文で使用するためのデータを収集する目的で、学生個人が実施しているアンケート調査を対象とする⁽⁷⁾。SNSのうち Twitter（現「X」）において「#卒論アンケート」のタグがついているもののうち、卒論アンケートにリンクされているものを無作為に抽出した⁽⁸⁾。また、リンク先の卒論アンケートは、原則として GF で作成されているものに限った⁽⁹⁾。収集できた卒論アンケートは合計 70 であった⁽¹⁰⁾。

合計 70 のアンケートについて、回答対象者、質問文（問い）の妥当性、回答の選択肢の妥当性、問いと答えのかみ合い度の各観点から調査した。

当然のことながら、各アンケートに対して、何名の人が、具体的にどのように回答したのかは、アンケート実施者以外にはわからない。また、各アンケート調査の結果が、実際に卒業論文においてどのように使用されたのか（あるいはされなかったのか）についても、通例卒業論文が非公開であることに加え、アンケート実施者がほとんどの場合匿名で

ある以上、確認する手段がない。したがって、本稿の目的は、あくまでもどのようなアンケート調査が実際に行われているのかを調査することに留まる。また、70のアンケートであるので、中本（2019, 2020, 2021）と同様、抜き取り調査的性格を帯びる。

これより以下では、調査結果を詳述する。

6. アンケートの対象者

アンケートの対象者が明確に指定されているものは16例あった⁽¹¹⁾。

- (11) このアンケートは、20代女性を対象に卒業研究データとして使用するものです。[11]⁽¹²⁾
- (12) 英語学習法、英語学習の動機づけについて学生の方を対象にアンケートを実施しています。英語を勉強している皆さんのご協力が必要です。[14]

等しく対象者を明記していたとしても、指定の厳密度は異なる。(11)は性別と年齢を指定しているが、身分は指定していないので、20歳の会社員でも、29歳の無職でもかまわない。それに対し、(12)は「学生」「英語を勉強している皆さん」が曖昧であり、漠然としている。[14]のアンケートには「大学の英語の授業で悪い成績を取りたくないの、英語の勉強をしなければならない。」という質問項目が含まれていることから、「学生」は「大学生」を意味していると断定できるが、中学生や高校生を含んでいると解釈して回答し始めた人は、大学生に関する質問に答えることができない。

[14]のように、アンケートを行っている本人の頭の中では対象者がかなり具体的に限定できているにもかかわらず、調査画面（対面調査の調査紙に相当する）でそれを明示していないアンケートは他にもある。[08]のアンケートでは、

- (13) 対象はすべての人です。[08]

と冒頭に書いてあるが、3番目の質問は「あなたの1番好きなアイドルを教えてください。アイドル個人の名前ではなくグループ名でお願いします。」であり、その後好きなアイドルグループがあることを前提にした質問が続いているので、「対象は、好きなアイドルグループがある人です」とすべきである。

対象者が矛盾しているアンケートが2例あった。

- (14) 旅行をする 20 代の男女を対象にアンケート調査を行っております。[67]
 (15) 大学生のテレビ視聴の実態調査にあたりアンケートを集めております。[69]

と冒頭に明記されているのに、[67] では「あなたの年代を教えてください」という質問に対する回答の選択肢が「10 代、20 代、30 代、…60 代以上」、[69] では「職業」をたずねる質問の選択肢が「会社員、自営業、自由業、大学生、高校生、小・中学生、無職、その他」となっており矛盾している。§2 で述べたように、インターネット調査では本人確認ができないので実際に 20 代の人や大学生が回答しているのかはわからないのだが、このような選択肢は、不適切な回答者がいることを前提にしているのであろうか。おそらくそうではなく、アンケート調査票を作成した後の確認が不十分であることが原因であろう。

調査票に対象者が明記されていなくても、暗黙のうちに対象者が限定されていると判断できるアンケートが 32 例あった。

- (16) あなたの Instagram の利用状況について ([04] の途中の表題)
 (17) ジブリとディズニーの悪役についての調査 ([37] の表題)
 (18) fate/grand order のリアルイベントに関するアンケート ([03] の表題)

いずれも対象者を明記していないが、(16) の表題から Instagram を利用している人が対象となっていることがわかる。実際、利用していない人は、この表題以下の質問に回答できない。同様に、(17) でも、ジブリ（作品）とディズニー（作品）をある程度知っている人でないと回答できないし、回答しようという気持ちにならないであろう。(18) では、そもそも「fate/grand order」が何なのかを知らない人には回答不能である。

以上は、§2 の (b) 「調査に協力する人に偏りが生じる」と関係する。仮に SNS を通じてこれらのアンケート調査の存在を知った場合でも、自分が知らないことや、自分に興味がないことを扱ったアンケート調査には、ふつうは回答しないはずである。このことから、次の一般法則を引き出すことができる。

- 〈a〉アンケート実施者が、回答者を限定する場合→アンケートの実施者に権限がある。
 〈b〉アンケート実施者は明確に回答者を制限していないものの、回答者の興味等によって、回答の有無が決まる場合→アンケートの回答者に権限がある。

〈a〉であっても 〈b〉を満たさない場合は回答してもらえないはずなので、アンケート調査では、実施者より回答者により強い権限が与えられていることがわかる。ようするに、国勢調査のような場合を除き、対象者に回答を強要することはできない。

対象者が回答の選択肢によって、事実上制限されている場合がある。

- (19) オンライン授業についての調査／学年（1年 2年 3年 4年）[19]
 (20) 「若者のテレビ離れ」について／年齢を選択してください（10代、20代、30代）[70]

[19]の表題は「オンライン授業についての調査」となっているが、冒頭の学年の質問の選択肢が1年～4年となっていることから、暗に大学生を対象にしていることがわかる。小学校～高等学校でもオンライン授業は実施されているが、小学生～高校生は対象外である。一方、[70]は「若者のテレビ離れ」を扱っているが、「若者」以外の人がそれをどう思っているのかを調査するのではなく、実際に「若者」がどう思っているのかを調査しようとしているということが、年齢の質問に対する回答の選択肢からわかる。

質問文に内在している前提によって、実質的に回答者が制限されている場合もある。先の[08]（(13)を参照）と似たようなものとして[07]がある。

- (21) あなたはアイドルに関心・興味がありますか？（次の質問）アイドルに対して1番焦点をあてるポイントはどこですか？[07]
 (22) 普段自炊はどのくらいの頻度でしますか？[42]

(21)の最初のyes-no疑問文には否定的に答えられるが、後のwh疑問文は、前の文に肯定的に答えていることを前提にしているので、否定的に答えた人は回答できない。よって、「アイドルに関心・興味がある人」を対象にしたアンケートであることがわかる。同様に(22)も「普段自炊している人」が対象者であることがわかる⁽¹³⁾。

今回の調査から、卒論アンケートの対象者の指定の仕方について、次の特徴があることがわかった。

- (a) 対象者が明示されているアンケートより、明示されていないアンケートの方が多い。
 (b) 明示されていなくても、実質的に対象者が限定されている場合が多い。
 (c) アンケート実施者には、このような人が回答するであろう（あるいは、このような人に回答してほしい）という考え（や気持ち）があり、それを暗黙のうちに前提としてアンケートが構成されている場合が多い。興味がない人は対象外とすることは、アンケート調査では自然なことであろうが、あえて対象者を限定しないと明言しているにもかかわらず、後の質問文や回答の選択肢で回答者を制限している場合もあり、実施者の一方的な決めつけが目立つ。換言すれば、回答者の立場に立ってつくられていない場合が多い。
 (d) 想定している回答者が、事実上、大学生となっているアンケートがほとんどであ

るという印象を受けた。たとえば、次のアンケートはその典型例である。

- (23) 小学校の頃の経験について／1. ポジティブ（楽しかった、嬉しかった）な経験は、今いくつ思い出せますか。／2. 1のポジティブ（楽しかった、嬉しかった）な感情の大きな要因を、以下の項目から一つ選択してください。【対人関係（親子、友人、恋人、師弟関係など）、勉学、課外活動（部活動、習い事、趣味、留学、サークル、インターン、アルバイト）】 [24]⁽¹⁴⁾

小学生の頃の経験をたずねているはずなのに、回答の選択肢は明らかに大学生生活を想定している。卒論アンケートは、大学生が、大学生に対して、（現在の）大学生時代のことをたずねているという想定でつくられているアンケートであると断言してもよいほどである。その想定で不都合のないアンケートもあるが、回答不能な問いを含む不都合なアンケートになっているものも少なくない。回答者を大学生に限定しないなら、回答者は大学生ではないかもしれないという前提に立ち、想像力を働かせて質問文や回答の選択肢を練る態度を養う必要がある⁽¹⁵⁾。

7. アンケートの質問文

ここでは、§4でまとめたよい（あるいはよくない）質問文という観点から検証する。〈〉内の数字は §4 と対応している。

まず〈1〉と関連して、多くのアンケートでは、年齢や性別をたずねている（年齢は53例、性別は56例）。アンケートの内容によっては、これらをたずねる必要がある。たとえば、「メイクする男子が増えた理由についてのアンケート」[63]では、問3は「あなたはメイクする男性をどう思いますか。※女性と答えた方のみ」、問5は「あなたはメイクする男性をどう思いますか※ここからは男性と答えた方のみ」となっている。

その一方で、「あなたの年齢を教えてください。【大学1年生、大学2年生、大学3年生、大学4年生】」[66]では学年と年齢は無関係である（70歳の大学1年生がいてもよい）し、「あなたの年代層は？【高校生、大学生、社会人】」[44]では身分をたずねており、問いと選択肢がかみ合っていない。また、「当てはまるものを選択してください【10代、20代男性、20代女性（途中略）50代男性、50代女性、60代以上、その他】」[58]では、10代と60代以上はなぜ性別に分ける必要がないのか不明である。さらに、「あなたの誕生日は何月ですか。【1～11月、12月】」[56]では、なぜ12月だけを特別扱いにするのか、このアンケート全体を見ても、不明である。以上のような不適切な質問や選択肢

から疑われるのは、本当に年齢や性別をたずねる必要があるのかを十分に検討したうえで質問に加えたのかということである。「調査目的に無関係な質問はしない」(菅 2018: 21)ということをご心得しておくべきである。

次に〈2〉について。あいまいな問いが1つでも含まれると判断したアンケートは17例あった。

(24) 昨年、1話約30分で構成されるアニメを【テレビ】で何本ほど見ましたか？

[01]

複数の種類のアニメ作品を数えるのか、同一作品の毎回の放送を数えるのかによって「本」の解釈が変わる。たとえば、毎週『ドラえもん』しか見なかった人が前者で解釈すれば回答は1本となるが、同じ人が後者で解釈すれば、年間で50本程度となる。したがって、回答には複数の意味が混在する可能性があるため、この質問項目の結果はデータとして使用できない。

(25) 自分と同性のアイドルを好きになったことがある方に質問です。そのアイドルを好きになった理由は何ですか？ [07]

(26) もし自分が同性のアイドルを好きになったとします。ライブに行ったり楽曲を購入したりしてファンを名乗ることに対して抵抗はありますか？ [07]

(25)の直後の質問が(26)である。この文脈においては、仮定の質問に回答するのは、同性のアイドルを好きになったことがない人だけだと解釈することになるが、「同性のアイドルを好きになったことがない方に質問です」と明記されていないので、「別の同性アイドルを好きになった」という仮定と解釈することも可能なため、あいまいである。

同様に、[39]は「ジャニーズファンについて」という表題のアンケートであるが、冒頭で性別、年齢、職業をたずねた直後に、

(27) あなたが1番好きなグループを教えてください(個人活動の場合個人名でお書き下さい) [39]

という質問がある。このアンケートの文脈では「ジャニーズに所属しているグループ」となるが、それ以外でもよいのか、あいまいである。

質問文を作成しているアンケート実施者にとってはあいまいではないのであろうが、回

答者の立場に立つとあいまいである場合が目立つ。

- (28) 65歳以上の高齢者についてお聞きします。以下の1から14の各項目について、「そう思う」「まあそう思う」「どちらともいえない」「あまりそう思わない」「そう思わない」でお答えください。1. 多くの高齢者はケチでお金や物を貯めている (以下略) [31]

「多くの高齢者」という表現から、一般論として「高齢者」に対して回答者が持っている印象をたずねていると読み取ることができるが、一般論ではなく、回答者の身の回りに複数の高齢者がいて、その人たちについて回答することも考えられる。すると、その回答者にとっては、たとえば「一般的に高齢者は決してケチではないと思うが、私の周りにいる高齢者たちはいずれもケチだ」という場合はどちらで回答すればよいのかわからない。

同様に、[47]は「ツイステッドワンダーランドユーザーの方を対象」としたアンケートであることが明示されており、冒頭で性別と年齢をたずねた後に

- (29) あなたは自分のことをオタクだと思えますか。

という質問が続いている。しかし、「ツイステッドワンダーランド」のオタクなのか、他のゲームも含めた意味でのオタクなのか、ゲーム以外のことも含めた意味でのオタクなのか、複数の解釈が成立する。

- (30) 幼少期（1歳～6歳の間）にリトミックに通っていましたか？ [65]

- (31) リトミックを知っていましたか。 [65]

(31)は(30)に後続する質問なので、いつの段階で知っていたのかをたずねているのかがあいまいである。たとえば、6歳でリトミックに通った人の場合、通う前に知っていたのか（つまり、リトミックというものを知ったうえで通ったのか）をたずねられていると解釈するかもしれない。

以上のような質問文を作成した人には、別の解釈が可能かもしれないという想像が欠落していると言える。

専門用語や隠語などわかりにくい表現が用いられているアンケートは、多くはなかった（専門用語は2例、隠語は4例）。「投稿する際に、アーカイブ機能を利用する。」[4]、「農

産物の産直 EC を利用したことがありますか」[58]、「病みツイトをしますか？(次の問い) 匂わせツイトをしますか？」[06]、「今までに担降りした事がありますか？」[39]、「CD 等を積んだことがありますか？ 1つの CD 等で最高で何枚積みましたか？」[43] では、(筆者が) 下線を付した用語の意味がわからないとこれらの質問に回答できない。いずれのアンケートにも、これらの用語の説明はなく、用語の意味を知っていることを当然視して質問がつくられている。逆に言えば、回答者は意味がわからないかもしれない(あるいは、わからないはずだ)という想像が欠落している。

〈3〉の複数の項目を含む質問も3例と少なかった。このうち「好きな声優・プレイのきっかけとなる声優がいる場合は教えてください(複数可)」[15]は自由回答形式なので、「好きな声優」あるいは「プレイのきっかけとなる声優」のいずれかしかいない人でも回答は可能であるが、分析する際に、両者の区別はできない。

(32) 旅行に行く目的(は)現地のを食べる、買う、現地のスポットに行く(ことか) [21]

では3項目が列挙されているので、「いずれでもない」を含めば組み合わせは8通りある。

(33) あなたは、友人や家族との時間やプライベート、趣味をストーリーや投稿を行う(か)。[04]

に至っては「AやBとのC、D、EをFやGするか」という構造のわかりにくさに加え、「家族と過ごすこと=プライベートなこと」という解釈を許容するあいまいさ、「ストーリー」という用語(隠語か)の意味のわかりにくさも関与して、かなり複雑になっている。おそらく質問者の意図としては、何らかの「ストーリーや投稿を行うか」が知りたいのであろうが、それでもなお、ダブル・バーレル質問になる。

〈4〉のバイアスがかかった質問も1例で、卒論アンケートで目立つ特徴とは言えない。

(34) イスラム国(IS)などのメディアの情報でイスラム教に対して恐怖感を感じたことはありますか？ [12]

この質問では、本来イスラム教に対する恐怖心と、イスラム国という組織(の行動)に対する恐怖心は別のはずであるのに、「イスラム国(の行動)に対する恐怖心は、同時に、イスラム教に対する恐怖心である」という前提に立っており、私たちが持つイスラム国に

関する百科的な知識が関与することで、誘導質問（次段落を参照）にもなっている。さらに、恐怖心を持たせた原因は「メディアの情報」にもあるはずで、どのような報道がなされたのかということに大きく影響を受けるはずである。(34) は単純に「イスラム教に対して恐怖感を抱いたことはありますか」で十分である。

〈5〉の誘導質問は9例あった。

(35) 発達障害について【聞いたことはある、聞いたこともない】 [57]

(36) あなたは南町田駅が2019年に南町田グランベリーパーク駅に駅名が改称したことを知っていますか? [62]

(37) メンズメイクというものをご存知ですか [63]

これらの質問では、いずれも、このアンケートを目にする前に知らなかった人でも「このアンケート（この質問文）で知りました」という意味で、肯定的に回答するかもしれない。アンケート以前に知っていたか否かを知りたいなら、たとえば「発達障害とは具体的にどのような障害ですか」、「南町田駅の新しい駅名を書いてください。わからない場合はわかりませんと回答してください」として自由回答にする方法も考えられる。一方、「メンズメイク」ではその用語から意味が推測できてしまうので、「メンズメイクをしたことがありますか」のような別の質問に置き換える必要があるだろう⁽¹⁶⁾。

上記 [62] では質問文中に説明があり、そこで回答者が学習する。同様に、

(38) パーソナルカラーは色相／彩度／明度を軸に春・夏・秋・冬の4つのタイプに分かれることを知っていますか。[55]（下線は筆者による）

(39) 環境配慮型パッケージとはパッケージの基本的な機能はそのまま、リデュース・リユース・リサイクルを考慮して作られたパッケージを指します。環境配慮型（エコ）パッケージを知っていますか? [41]

(40) 国宝5城に関する意識調査です。（途中略）上記5城が国宝であると知っていましたか。[54]

(38) では下線部から、(39) (40) では第1文から、回答者は「パーソナルカラー」「環境配慮型パッケージ」「上記5城が国宝であること」について「知る」わけだ（その意味で、これらは「教育型の問い」とも言える）から、否定的に答えるはずがない。この種の質問文を見ると、

- (41) サントリーは、社会に潤いを与える企業でありたいとの思いから、〇〇年にバレーボールチーム「サントリーサンバーズ」を創部しました⁽¹⁷⁾。

という文の「〇〇年」を埋めるために「ヒント」がついており、そこをクリックすると実質的に答えがすぐにわかるような、企業イメージを上げたり、商品の売り上げを伸ばしたりすることを目的としたクイズを連想する。

一見すると回答者に学習させているということがわかりにくい問いもある。

- (42) いつでも受けることができる動画配信授業は対面授業の時のような緊張感を感じられますか？ [20]
- (43) 中学校理科の天文分野に関する内容に対する理解を深める上で、実際に望遠鏡を利用することは必要だと思いますか。 [51]

(42) では、「いつでも受けることができるから、緊張感を感じない（はずだ）」を、(43) では「…理解が深まるから、…必要だ」を回答者は学習する。これらは典型的な誘導質問である。おそらく質問を作成した人には誘導しようとする意図はないのであろうが、それぞれ「感じられない」「必要だと思う」という回答が多数を占めることを期待していることは間違いない。そして、その回答数を基にして、自分の主張を展開するのであろう。このような方法にはとても危険な側面があるということを、大学生なら知っておくべきである。実際にクイズのような質問を出しているものもあった。

- (44) かんぴょうの原料となるユウガオの実はどれでしょうか。 [26]

この質問にはユウガオ、ヒョウタン、ヘチマの写真が掲載されており、正しいものを選択するクイズ形式になっているが、ヒョウタンとヘチマの実は比較的良好に知られているので、消去法で正解に到達できる。(38) - (40) (44) では、いずれもやや専門的な内容のアンケートであるがゆえに、質問者が回答者に説明しなければならないという意図が働き、結果的に誘導型・教育型の質問を作成してしまったと言えよう。しかし、認知度をたずねる質問をどうしても含めたいのであれば、自由回答形式を取り入れるなどして工夫する必要があるし、写真を提示するならば、概してあまり知られていない（と思われる）植物の写真を掲載するなどの工夫が必要であろう。

このような誘導型・教育型の質問で質問者が期待する回答が多かったという結果が出て、その結果をデータとして使用することはできないはずである。

〈6〉の個人的質問と一般的質問について、卒論アンケートでは、この区別が意識されていないのではないかという疑いを持った。たしかに、

- (7) あなたは環境保護のためにリサイクル活動は必要だと思いますか。(再掲)
- (8) あなたはリサイクル活動をしたいと思いますか。(再掲)

において、どちらも回答者個人の考えを問うているという点では、個人的質問であると言える。そもそもアンケート調査では、回答者個人の考え(答え)をたずねるために実施されるのだから、当然のことである。しかし、(7)は次のように展開すれば、一般的質問であることが明らかになる。

- (7') 環境保護のために(たとえあなた自身は参加しなくても)リサイクル活動は(一般論として)必要だとあなたは思いますか。

今回の調査では、自分がつくった質問文をここまで吟味したうえでアンケート調査を実施しているのか疑わしいという印象を持った。たとえば、「AKB48(姉妹グループのぞく)ファンに関する調査」[02]では、

- (45) (回答者自身が)ファンクラブに加入している(か)
(AKB48を)好きになったきっかけ(は何か)
アイドルに求めるもの(は何か)[02](この順序で質問が並んでいる)

という質問が続いている(いずれも()内は筆者による補いである)。そして、「求めるもの」の具体的項目として、「歌の上手さ」から「スター性」まで9項目が列挙されている。この質問と項目を見た回答者は、

- (46) あなた自身が、アイドルに求めるものは何か。(個人的質問)
- (46') あなた自身は、どのような特質を備えたアイドルがよい(好き)か。
- (47) 一般論として、人々(あるいはファン)がアイドルに求めるものは何だとあなたは考えるか。

の(46)(47)のどちらか一方で解釈する可能性があり、あいまいである。質問者はおそらく(46)の意味で問うているのであろうが、具体的項目から(47)で解釈することを妨

げない。

このような、質問者がそうとは気づかずに一般的質問をしている（と言える）事例は他にも多数ある。類例を追加する。

(48) Q8. あなたが温泉地へ行く目的は何ですか。

Q9. あなたが温泉地を選ぶ際に最も重視することは何ですか。

Q10. あなたは、温泉地にどのくらい滞在しますか。[18]

(49) 詰め替え用商品を購入する理由は何ですか？

企業の環境に対する取り組みについての情報発信は十分だと思いますか？

[41]（この順序で質問が並んでいる）

(50) あなたは英語に対する苦手意識を持っていますか？

日本人が義務教育で英語を学ぶことは（日本人にとって）必要だと思いますか？（下線および（ ）内は筆者による）

英語を習得することは自分にとって重要だと思いますか？ [49]（この順序で質問が並んでいる／下線は筆者による）⁽¹⁸⁾

(48) では個人→一般→個人、(49) では個人→一般、(50) では個人→一般→個人という順序になっており、個人的質問と一般的質問が意識的に区別されていないことは明白である。もしこれらの一般的質問が自由回答方式であるなら、回答者個人の考えを引き出せるかもしれない（たとえば、(48) の Q9 に対する「温泉地のビールの銘柄が〇〇であること」という奇抜な回答など）が、実際には「温泉の種類（泉質、効能など）」「距離・移動時間」といった選択肢が並んでいるので、「一般論として、温泉に求められるものは何だと、あなたは考えるか」を問うていることになる。このようなアンケート調査の結果を集計し、たとえば「温泉の種類（泉質、効能など）を重視する人が何人（何%）、重視しない人が何人（何%）」とはじき出したとしても、

(51) 温泉の種類（泉質、効能など）が気に入った温泉なら行きたいと思うか。

(52) 温泉では、（価格やサービスなどより）温泉の種類（泉質、効能など）が重視されるべきであると思うか。

という異なる問いの答えが混在している可能性があり、その数値は意味をなさない。

次に、漠然とした（抽象的な）問いについて。大学生の卒論アンケートで目立つ特徴ではないが、散見された。

- (53) SNSに投稿するとき、自分の良い点を知ってもらうように工夫をする(か)。
[04]
- (54) 留学経験者にお聞きします。あなたは留学前、イスラム教を身近に感じていましたか？[12]
- (55) 表現するほうである(か)[24]

(53)では具体的にどのような工夫をするのかが思いつかない場合は、回答しにくいはずである。(54)では「身近に感じ(る)」に対して、「近くにイスラム教徒の人がいる」「イスラム教の教会に行った(見た)ことがある」「イスラム教についての知識が豊富にある」など、さまざまな解釈が可能であり、仮にそれらの人が皆この質問に肯定的に回答したとしても、それぞれが異なる(より具体的な問いに対する)答えであるので、その意味合いは異なる。(55)は「あなたは、自分自身を表現するタイプの間か」という意味の質問であると思われるが、言葉で表現するのか、態度で表現するのか、自慢するという意味なのか、自慢はしないが自分を隠さないという意味なのか、とてもあいまいであり、回答不能である。たとえ回答しても、その意味合いは千差万別である可能性がある。したがって、たとえば『自分を表現するほうである』という質問に対する否定的回答が多数を占めた。したがって、このような人たちは、日常生活においてストレスを感じている。」などと主張しても、意味をなさない。「自分とは…の人物だ、などといちいち言葉で表現しないから、日常生活でストレスを感じている」「私は自慢をしない人物だから、日常生活でストレスを感じている」などの複数の意味を内在している可能性があるからである⁽¹⁹⁾。

注

- (1) 安藤によると、「ネット調査」「オンライン調査」「ウェブ調査」と呼ばれることもある。
- (2) https://www.google.com/intl/ja_jp/forms/about/#features (2023年5月31日閲覧)
- (3) 同上。
- (4) これは商品レビューでも同様であるが、商品レビューの場合は、レビューを受け付けるインターネットサイトが、肯定的な回答に限定していたり、回答に対して謝礼(ポイント付与など)を支払っていたりするので、必ずしも誠実な回答であるとは言えない側面がある(中本(2021))。
- (5) (2)には「頑張っている」というバイアスのかかった表現が用いられているという別の問題を内包しているという点でも(3)の例としては適切さを欠く。なお、安藤は(3)を「質問」としているが、末尾に終助詞「か」が必要である。
- (6) 問答の「噛み合い度」については、中本(2019, 2020)も参照。
- (7) 今回の調査では、高校生の卒業論文用アンケートが1つ含まれている([63])。また、卒業論文以外に、ゼミナールの研究用のアンケートも含まれている。
- (8) 「#卒業論文アンケート」などの検索語句での検索も可能であるが、今回は「#卒論アン

- ケート」に限定した。それでもサンプル調査には十分なサンプルが収集できたからである。
- (9) [15]のみGFではなくsurveymonkeyというサイトである。
- (10) いずれも2020年8月から11月に収集した。当時は新型コロナウイルス感染症拡大のため、全国各地の大学でオンライン授業が実施されていた。そのため、自宅学習する大学生が、普段以上にインターネットを利用して卒業論文の執筆に取り組んでいた可能性があった。なお、調査対象としたアンケートのURLは、紙幅の都合上割愛する。また、締め切り日時を過ぎるとGFの質問にはアクセスできなくなるので、現在はどのアンケートもインターネット上で確認することは不可能となっている。
- (11) アンケートを「例」という単位で数える。また、ある項目が1つでも当てはまる場合、その項目について「1例」とカウントする。たとえば、あるアンケートに合計10個の質問があり、そのうち1つの質問文のみがあいまいな質問文であった場合でも、そのアンケートは「あいまいな質問文が用いられているアンケート」の「1例」とカウントする。
- (12) []内の数字は、筆者が本調査で用いた70例のアンケートを識別するための整理番号(1~70)である。
- (13) (22)は性別、年齢をたずねる質問に続く3番目の質問である。
- (14) 【 】内は回答の選択肢であることを示す。
- (15) 想像力に関して、脇(2005)は読書経験の有無および読書の質と、想像力や思考力との関連性について指摘している。想像力を欠いた卒論アンケートが頻繁に見られるという事実と、脇が指摘する関連性との関係については、詳しく検証する価値があるように思う。
- (16) 「メイクは女性だけがするものだと思いますか」という問いは、暗に「そうではない」という答えを想像させる修辭疑問文と解釈される可能性があるため、ここで用いるのは適切ではない。
- (17) <https://www.suntory.co.jp/quiz/> (2023年4月26日閲覧)
- (18) (50)の2行目の問いは(7)と似ている。
- (19) 紙幅が尽きたので、この先の分析結果については、稿を改めて提示する。

引用文献

- 安藤明之(2021)『初めてでもできる 社会調査・アンケート調査とデータ解析(第3版)』日本評論社
- 及川慶浩(2015)『はじめての看護研究 アンケート調査編』メディカ出版
- 菅 民郎(2018)『アンケート分析入門 Excelによる集計・評価・分析』オーム社
- 田中春美他(1988)『現代言語学辞典』成美堂
- 土屋雅子・齋藤友博(2011)『看護・医療系研究のためのアンケート・面接調査ガイド—初心者にもできる質問紙・インタビューガイドの作り方』診断と治療社
- 中本恭平(2019)「噛み合わないFAQの問答」『共立女子大学文芸学部紀要』第65集、pp.29-45
- 中本恭平(2020)「『市政への提言』の要望と回答は噛み合っているか」『共立女子大学文芸学部紀要』第66集、pp.15-35
- 中本恭平(2021)「商品レビューをレビューする」『共立女子大学文芸学部紀要』第67集、pp.1-15。
- 中本恭平(2022)「小学校理科の教科書は児童にどのような問いを発しているか——『わくわく理科3』の分析——」『共立女子大学文芸学部紀要』第68集、pp.47-76
- 脇 明子(2005)『読む力は生きる力』岩波書店